

NEWS LETTER Vol.03 (Aクラス)

2022.06.23

武庫愛の園幼稚園に見学実習に行ってきました！

2022年6月14日(火) 10:00 -12:00



先生方は**子どもたちが主体的に考え、多くの経験が出来るように**言葉のかけ方や環境作りを工夫されていることが分かりました。幼稚園に入るまでの育った環境や生育歴・発達の段階に沿って保育を行っており、子ども一人一人に合わせて先生方が関わっている印象を受けました。また、幼稚園に慣れない園児さんやけんかをしてしまった子どもたちに対して、必ず行動の理由を聞いて**子どもの気持ちを汲んであげる**ことを大切にされているようでした。丁寧に子どもの声に耳を傾け、分かっていることで先生や幼稚園が子どもにとって安心できる場所になっているのだと感じました。まだ自分の意思を伝えることが難しい1歳・2歳の年齢では、先生が気持ちを汲み取ってあげることがより大切であることも学びました。保護者に対しても**傾聴と受容**の姿勢を大切にされており、園で出来ることはないかを職員全員で話し合っており、**子どもにとって一番良い方法は何か**を常に考えて保育を行っていることが分かりました。傾聴や受容の姿勢は心理職に通ずるものがありました。

濱名先生からのお話

-乳幼児への心理的支援とは-



幼稚園のカウンセラーは、発達や育児、子育てに関する相談を主に受けているそうです。保護者に対する支援では、保護者の「**養育者としての部分**」を支援し、子どものより良い育ちのために最善を考えることが大切であることが分かりました。その一方で、無意識のうちに子どもを中心とした見方で保護者に働きかけ、追い詰めてしまう可能性もあるので、**傾聴と受容の姿勢**を忘れてはならないことも学びました。心理職は、第三者として客観的に子どもたちや園の様子を見て、先生や小学校などと連携し、子どもの**未来を見据えた支援**を行うことが重要だと感じました。

また、事後学習では、「心理職として私達にできることは何か」を話し合い、小学校・幼稚園の心理職の連携の必要性や、保育者や子どもだけではなく「幼稚園全体」への**総合的**でかつ**客観的**な支援が重要ではないかなどの意見を交わし、さらに学びを深めました。

保育における見守り

-多方面からのアプローチ-



園内を見学した際にも、子どもの興味や関心を引き出す工夫が至る所に見られました。子どもの「**まだできないけどやってみたい**」という気持ちを汲んで自分で考えたり乗り越えたりする経験を先生たちが提供していることが分かりました。空間や時間の構成、友達同士の関係作り、親子の関係作りなど様々な方面に保育の工夫がありました。それらの工夫によって、幼稚園や先生が子供たちにとって**安心できる場所や存在**になっていることを感じました。

編集後記

お忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。将来に繋がるとても良い経験となりました。濱名先生、福谷先生をはじめとする武庫愛の園幼稚園の皆様にご心より感謝申し上げます。

NEWS LETTER 作成:大西

